

脳 脊髄液の産生・循環・吸収における“bulk flow theory”は、あたかも「天動説」が「地動説」に置き換わるかのような刷新を迫られています。シャント手術、神経内視鏡による第三脳室底開窓術などの水頭症に対する優れた治療法も、「天動説」を基盤として確立してきたと言えるかもしれません。パラダイム・シフトが生じている今日、脳脊髄液の産生・吸収の不均衡の結果生じてくる水頭症、およびその周辺の病態に対して、新たな知見に基づいて、診断や治療を見直していただくことが必要と思われます。

本特集は「水頭症—脳脊髄液動態への理解と治療に迫る」と題しました。これから水頭症治療にあたる専門医前後の医師にとって必要不可欠となる病態への理解と治療のスタンダードを示すことを目的に企画しましたが、もちろん既に豊富な知識をお持ちの先生方にとっても知識のアップデートを図る上で有用な内容になると思います。

第1章は「脳脊髄液の生理と解剖」と題しました。現時点での脳脊髄液産生と吸収のメカニズムに関して、マクロ的な解剖学的視点、MRIなどの生体から得られる視点、さらに分子生物学的視点によって得られてきた知見について解説します。Bulk flow theory では説明しきれなかった新しい脳脊髄液動態の概念についての理解が深まることを期待します。また、水頭症治療を行う上で必要な脳脊髄液腔の解剖学的知識について、神経内視鏡治療を行う際に必要な事項を中心に解説します。

第2章は「特発性正常圧水頭症」の項目を設けました。特発性正常圧水頭症 (iNPH) の診療ガイドラインを基礎とした具体的な診断の方法や手順とともに、iNPH の疫学、さらに鑑別を要する神経疾患について、脳神経外科専門医が知っておくべき知識をまとめます。

第3章は「水頭症の治療」と題し、種々の成因によって生じる水頭症に対する治療を中心とした章としました。各々の病態への理解を深めていただくとともに、治療にあたり注意すべきポイントについて、実臨床に即した話題を取り上げます。

第4章は「脳脊髄液漏出症と特発性頭蓋内圧亢進症」としました。脳脊髄液動態の異常により生じる両病態にスポットを当て、専門医として知っておくべき診断と治療の実際について解説します。

先述のとおり、水頭症に対する優れた治療方法が開発・実践されてきましたが、理論に曖昧さが残るままに治療が行われてきた面も否定できません。もちろん、現時点でも水頭症の病態については未知の部分がありますが、そのような限界も含め、新たなエビデンスを基礎とした治療について理解が深まれば幸いです。

喜多 大輔

公立能登総合病院脳神経外科